

◆◆◆評価の窓口◆◆◆

- 10月5日、前期の終業まであとわずか。
4月からここまでの子どもたちのがんばりを
評価する時期です。
今、教室のようすをのぞいてみると、
復習やテストに取り組んでいる学級がたくさん。
どの教室もよい緊張につつまれています。
どの子も真剣に、懸命に問題に向かっています。



- 学習面での子どもたちの評価は、大きく三つの窓口、

▼知識・技能 ▼思考・判断・表現 ▼主体的に取り組む態度

から判断して通知表「そだち」に記してお伝えします。

一つ目の知識・技能。

これはどのくらい「分かる・できる」か、という窓口。学習の出口、結果で判断します。
私のような「偏差値教育」真っ只中で育った世代にとって、学力の評価はこの窓口が
全てだった、と言っても過言ではないでしょう。

「クイズ王」などという方は、この窓口からみた頂点とも言えそうです。

- 二つ目の思考・判断・表現。

これは自分で「考え、決めたことを相手にきちんと伝える」ことができるか、という窓口。
以前、家族に頼まれ十数個のドーナッツを買って帰ろうとレジに並んだときのこと。

「店内でお召し上がりですか、お持ち帰りですか」と尋ねられてびっくり。

私が一人だと分かってないのか。この人なら全部食べきれんだろうと考えたのか。
単にマニュアル通りの言葉、何も考えずに言っただけなのか…。真相は分かりません。
が、いずれにしても適切に「考え、決めて伝える」力が十分、とは言えません。

思考・判断・表現。学習の途中、過程で見取り、判断します。

正解のない、正解が一つではない未来を生きる子どもたちにとって大切な窓口になります。

- 三つ目の主体的に取り組む態度。

これはどのくらい「やる気」があるか、という窓口。

学習入口の期待感、学習途中の熱中感、出口の満足感と次への期待感などから判断します。

「やる気」は学習を楽しく効果的にすすめる原動力。やる気があれば、高ければ知識や
技能、思考力・判断力・表現力も、より高まります。

- 知識・技能と思考・判断・表現、それから主体的に取り組む態度。

三つの窓口、どれも大切で必要なもの。子どもにバランスよく身に付くよう、先生方は
最後まで指導を続けます。